

聴覚障がい者・盲ろう者の Well-being（健康で幸福な生活）と補聴（聴覚活用）の意義、コミュニケーション支援のあり方についての研究



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 言語聴覚学科 教授

黒田 生子 Kuroda Seiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：聴覚障害者・盲ろう者・Well-being・コミュニケーション・関係発達・補聴器・人工内耳・手話

研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

近年、私たちの「Well-being（健康で幸福な生活）」（R. J. Waldinger, M. Schulz, 2023）に影響する最大の要因とは、身近な「他者との関係性（量と質）の充実」であることが指摘され、日常的なコミュニケーションの重要性が改めて注目されている。（視）聴覚に障害を抱える当事者が社会的な孤立や孤独を回避し、その Well-being（健康で幸福な生活）を実現するために、適切な補聴環境を整備し、さらに手話等の使用により、早期から身近な他者とのコミュニケーション関係を確立することはきわめて重要である。特に乳幼児の早期補聴と聴覚活用は、単に音韻聴取のために重要というだけではなく、より原初的（プリミティブ）で情動的、感性的な水準で、「子ども一養育者」の関係性を改善し、日常的な「音の風景」の拡大により日本語の概念基盤の形成に資する点に大きい意義がある。黒田（2020）らはこうした知見をふまえ、大倉得史教授（京都大学）らと共に、聴覚障害児・盲ろう児の早期支援現場の初任者向け研修用プログラム（2018 厚生労働科研費事業）を取りまとめ、現任者向けテキストの刊行や研修会の開催に取り組んできた。当事者によれば、補聴器や人工聴覚器の装用意義とは、話者の音声の超分節的要素（力動感）等が運ぶ情動の伝搬により、他者との「気持ちの通じ合い」の改善にこそ、求められるべきであることがわかる。今後も私たちの間身体性と間主観性の観点から、聴覚活用とコミュニケーションを主題に、研究を継続したいと考えている。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

これまでに刊行したテキストは、医療・福祉・教育・心理の幅広い学際分野から協力者＜医師（耳鼻咽喉科・眼科）、言語聴覚士、視能訓練士、聴覚障害および盲ろう当事者およびその家族、手話・指字通訳者ら＞の参加を得て、各分野を幅広く網羅して作成した。また学習補助教材として DVD やオンラインによる視聴用動画等を作成し、よりわかりやすく、実践的に聴覚障害者・盲ろう者支援の実践を学ぶことができるよう配慮した。子ども支援の基調には、鯨岡 峻教授（京都大学名誉教授）の関係発達論を据え、言語獲得支援の視点のみならず、子どもと養育者、身近な他者とのコミュニケーション関係と子どものこころの育ちを重視した内容とした。

今後、上記についての研修会や講演会等の継続により、聴覚障がい児および盲ろう児の早期支援法が医療・福祉・教育・心理の領域で、広く現任者に周知されて実践に生かされ、当事者の幸福に還元されることを期待している。また一般社会に広く聴覚障がい者・盲ろう者の現実的ニーズと、聴覚活用の本来の意義がきちんと理解されるよう、働きかけを継続していく予定である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【厚労科研費（障害者政策総合研究事業（感覚器障害分野））】（課題番号：H30-感覚器一般-001）

・「聴覚障がい児支援のための研修プログラム・テキスト開発のための研究」

【テキスト】

- ・（共著）『新訂版 聴覚障害教育の基本と実際』
- ・（編著）『聴覚障害学』